

全国 保健師長会 だより

令和7年1月4日(土)～5日(日)に開催された、第13回日本公衆衛生看護学会学術集会において、全国保健師長会特別企画ワークショップを開催しました。

今回のワークショップでは「変わりゆく保健師の役割と変わらないコアについて考える」『多職種』『連携』をキーワードに」をテーマとしました。

本学術集会のテーマが「多様なパートナーとともに未来を創る公衆衛生看護」であり、多様化・複雑化する健康課題に対して、保健師が「地域のケアシステムを構築する」という目的を達成するための保健師の役割について、改めて考える機会の一つになると考え企画しました。

保健師について考える際、保健師側からの視点だけでなく、保健師

・は、必ず、については、歯車がうまく回らず、保健師としての力が機能していないことがさまざまな自治体で起きている印象を受ける。

「自治体には必要不可欠な存在(専門職)」。これは時代が変わっても同じ。活躍する、頼りにされる、○○さんがいないと…、と言ってもらえる保健師になるために何が必要かを考えていくことが必要ではないか。

(3) 変わりゆく保健師の役割と変わらないコアについてどう考えるか？(田中氏)

・少子高齢化、人口減少に関連する問題、地域のつながりの希薄さから地域のコミュニティで健康課題を支援していくことが難しくなっている現状において、保健師はどのような役割を果たすべきか。
・身体・知的・精神障害等、さまざまな障害を抱えながら地域で暮らす人、生活困窮、孤独・孤立を抱えながら生活している人に保健師はどのように関わるべきか。

・大規模災害や感染症の流行等の健康危機に対して、保健師はどの

日本公衆衛生看護学会学術集会における ワークショップ活動報告

令和6年度全国保健師長会学術に関する委員会委員長／名古屋市健康福祉局健康増進課 唐川 祐一

ではない視点も踏まえて、保健師を哲学することが重要であると考え、講師には、元自治体職員の事務職で保健師とともに施策を進めてきたジャパンドリームヘルスケア(株)代表取締役社長の夏原善治氏、保健師である奈良県生駒市特命監の田中明美氏をお招きしました。
当日は79名の方にご参加いただき、グループワークも交え、年頃から保健師について語り合いました。本稿では、その一部をご紹介します。

講演

(1)「これまでの経験から、一般行政目線で保健師さんについて改めて考えてみました」(夏原氏)
・保健師さんはスキルが高い(経験

豊富)。
・健康づくり事業や健診項目等に困った時の確かなアドバイスがもらえた。
・数字(予算等)、法律に弱い↓弱いのになぜか聞かない。
・前任者の作成した予算書をそのまま利用↓毎年度同じ予算要求書になり、新年度に向けた「夢・希望」が感じられない(一般行政職にもいえること)。
・業務が細分化され、要求される内容が多く本当に大変! ↓いつも感じていたのは、「自治体には必要不可欠な存在(専門職)」であり、「多職種」「連携」の主人公になつてもらわないといけない。

(2)「多職種」「連携」について(夏原氏)
・「多職種」「連携」のキーワードは



奈良県生駒市特命監の田中明美氏

講演を踏まえ、参加者でグループワーク(1グループ5～6名)を行いました。

グループワークの中で出てきた意見には、「同じ思いの仲間を見つけて仕事をしてきた」「保健師は、お世話かいという武器を持つてつながる仕事をしてきた」「新しいつながりをつくっていくことが保健師であり、それが楽しい部分だと思う」「個別支援の中から、地域のニーズを抽出してそれを解決するプロセスを大切にしてきた」「さまざまな職種等の強みを共通の言葉に翻訳し、つなぎ、関係を紡ぐことが、保健師が大切にしなければならぬこと」等、地域ケアシステムを構築する観点、支援ネットワークのハブとしての保健師の役割について、確認し共有するよいな事柄がありました。

一方で、「個別支援から地域課題へ視点を広げることなんてできない」「ケースワークが出来ない保健師が増えてきている気がする」等、個別支援を起点とした地域の関係機関等とのつながりの機会を持てなくなつてきている状況への危惧があることも意見として出ていました。

参加者同士の熱量を肌で感じる

「保健師さん」の「はず」。
・多職種の中でも、スキルが高く、その専門的知識は、いろいろな事例検討、ケース対応、計画策定に必要不可欠な「はず」。
・自治体内での部や課を超えた連携において、幅広い知識を有する「保健師さん」は、引っぱりだこの「はず」。



ジャパンドリームヘルスケア(株)代表取締役社長の夏原善治氏

このできる開催形式として、対面での開催としましたが、グループワークの意見や参加者の表情等から、一定の共通認識を持つことができ、「元気が出た」「生まれ変わっても保健師になります」等、前向きに保健師を続けていく気持ちの醸成にもつながったものと感じました。

短い時間の中で、参加者全員が今回のテーマである、コアについて明確に言語化できたわけではないとは思いますが、しかし、グループワークの様子やアンケートの結果等から、答えがすぐに出るかどうかにかかわらず、繰り返し丁寧に、コアを確認するプロセスが、保健師として住民のために自信を持つて活動するために必要な、よりどころになるのだと感じました。

普段接することのない、全国の仲間と、保健師について語り合える機会は貴重であり、夢や希望を語り、実現に向けての活力となるような企画を今後も行いたいと思います。

最後に、このような素敵な会の実現のためにご尽力いただいた、講師のお二人、企画・運営に携わっていただいた方、参加者の皆さまに感謝申し上げます。

グループワーク

・地域で、さまざまな職種が活躍している現状において、保健師が果たせる(果たすべき)役割はどこにあるのか等について、問題提起や事例等を用いて、参加者みんなで改めて考える必要がある。保健師の「保健・医療・福祉」、それぞれの言葉に翻訳できる特性が多職種との連携を深化していく上での大きな強みではないか。そのためには、「多職種」「連携」が必要な、さまざまなケースへの対応を通して、地域とつながる、地域につなげる実践力を養っていくことが重要。